

令和7年度 川崎市公園緑地等整備計画推進委員会
第2回 生田緑地ばら苑再整備検討部会 会議摘録

1 開催日時

令和8年1月30日（金）10時00分～11時30分

2 開催場所

川崎市役所復元棟3階302会議室（オンライン併用）

3 出席委員

金子 忠一 委員、倉本 宣 委員、垣内 恵美子 委員、薬袋 奈美子 委員、
橘 たか 委員、佐藤 慶一 委員（計6名）

4 事務局

・緑政部長		磯部 由喜子	
・みどり・多摩川事業推進課	担当課長	小藪 隆文	
・みどり・多摩川事業推進課	担当係長	渡仲 百絵	
・みどり・多摩川事業推進課	担当	川島 和馬	
・みどり・多摩川事業推進課	担当	川原 瑠依紗	
・みどりの保全整備課	課長	渡邊 光次郎	
・みどりの管理課	課長	中村 豊	
・生田緑地整備事務所	所長	松本 茂人	（計8名）

5 会議の公開・非公開の別

公開

6 傍聴者

2名

7 次第

1 開会

2 議題（1） 生田緑地ばら苑管理運営方針策定に向けた検討状況について

8 議事摘録

【次第1 開会】

緑政部長 （開会挨拶）

事務局

(委員の紹介)

現地には東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科 元教授 金子 忠一様、明治大学 農学部 教授 倉本 宣様、オンライン参加では、政策研究大学院大学 名誉教授 垣内 恵美子様、日本女子大学 建築デザイン研究科 建築デザイン専攻 教授 葉袋 奈美子様、武蔵野大学大学院 非常勤講師 橘 たか様、専修大学 ネットワーク情報学部教授 佐藤 慶一様にご出席いただいている。

事務局

(職員の紹介)

ここからの進行は会長にお願いしたい。

金子会長

それでは、次第に従い委員会を進める。『会議の公開について』、事務局から説明されたい。

事務局

川崎市審議会等の会議の公開に関する条例第3条の規定に基づき、附属機関等の会議は原則公開となる。そのため、本委員会については、公開により審議を行う。

【各委員 了承】

金子会長

ご意見がなければ、本会議については、事務局からの説明のとおり、原則公開として進めていきたいが、よろしいか。

【各委員 了承】

金子会長

それでは、会議は公開を原則として進めていきたい。本日は、傍聴希望者は居るか。

事務局

傍聴希望者は2名である。

金子会長

本日は、傍聴希望者が居りますので、入室を許可する。

【次第2 議題】

金子会長

それでは、次第にしたがって進める。次第2の(1)「生田緑地ばら苑管理運営整備方針策定に向けた検討状況」について、事務局で説明した後に、委員の皆様から御意見、御質問等をい

ただきたい。それでは、事務局から説明をお願いします。

事務局 (会議資料1 「生田緑地ばら苑管理運営整備方針策定に向けた検討状況について」に基づいて説明)

金子会長 それでは、委員の皆さんから意見、質問等をいただきたい。オンラインでご出席の方が多いため、順番に伺う。会場の倉本委員のお考えを伺いたい。

倉本委員

- ・生田緑地憲章について、4回ほど勉強会をやらせていただいた。
- ・1番目は、2000年代のはじめから、兵庫県の県立公園で、生物多様性コーディネーターという専門家で識者でもある人が所属して、生物多様性のあり方を踏まえながら管理をしていること。
- ・2番目に、生田緑地内に持ち込む植物については、1種1種、丁寧に見て考えるべきであること。
- ・3番目は、2010年代に「どの範囲では遺伝子の変化がなく、生物を移動してもよい」とする冊子・本が林学分野から出ており、登壇された斎藤先生もその著者の一人であるが、現在の知見に立って見返すと、その時はいいと言っていたものが、今では動かしてはいけなくなっているものもある。今がいいと言われても、その先もいいとは限らないということ。
- ・4番目は実務として、実際の設計で基盤のビオガーデンや屋上の庭園をつくり、生態系・どこの系統かに配慮した工事を行ってきた事例をご説明いただき、そうした配慮にもとづく工事は実現可能であること。
- ・生田緑地憲章を生かしたばら苑をつくっていく考え方には基本的に賛成だが、そのプロセスで具体的に何をどうするかをはっきり決めておかなければ実現できないだろうし、逆にちゃんと決めれば実現できると申し上げたい。

金子会長 事務局から回答をお願いします。

事務局 ・我々もずっと生田緑地に携わってきており、生田緑地憲章について職員一同が十分理解しているかどうかはわからないが、これまで携わっている者の間では、生田緑地憲章は十分に周知で

きていると思っている。

- ・今回は新たなミュージアムの担当として別の部局も参加しているため、こういった勉強会を通じて理解していただくことを進めていきたい。
- ・実際の工事に入るまでにかなり時間がかかるため、工事に至るまでの期間に、先生にお示しいただいているプロセスをきちんと決めていき、マネジメント会議でご意見を伺いながら進めていきたいと考えている。

金子会長

続いてオンラインでご出席の委員の皆さんに伺う。垣内委員のお考えを伺いたい。

垣内委員

- ・1点目はミュージアムとばら苑・施設間連携についてである。新しいミュージアムの具体的な内容は検討中であるが、ミュージアムとばら苑は隣接し、非常に重要な施設である。資料にあるように、植物園的なばら苑と、総合博物館である新しいミュージアムは、対象とするものが大きく異なる。水分や土が新しいミュージアムに入ると、資料にカビがはえたり虫がわいたりして、重大な問題が生じる可能性がある。資料の9-2にあるように、両方で活用できるトイレやカフェなど、アメニティーの共有はできると考える。一方、活動の取り扱う内容と、それによって生じる制約は、きちんと考える必要がある。管理空間やバックヤードの共有は非常に難しい。両方ともだめにしてしまう可能性があるため、この点は強調してお伝えしたい。ばら苑は生田緑地の中で考えられてきたが、植物園的な色彩が非常に強い。植物園では通常コレクションポリシーがあり、アクセシビリティ、除籍の基準がある。今回ばら苑ではそれが台帳というカタチになっていて、コレクションがわかる。全てを新しいばら苑に持っていくのはなかなか難しいとの説明もあったが、これまでのコレクションポリシーをもう少し精緻化してアップデートし、市民やボランティアと共有することがとても重要ではないかと思う。新しいばら苑が植物園的な、バラを中心とするミュージアムになっていくなら、見ていただく・研究する・それに基づいて様々な活動をする必要があると、目的に沿ってコレクションポリシーをポリッシュ、アップデートすることもソフトの面で必要になってくる。植物を対象とするミュージアムと、歴史や美術など様々なものがある総合的なミュージアム

ジウムの両方の魅力が、生田緑地の魅力をさらに上げていく良い循環が得られることへの期待感を持っている。

・2点目として、ばら苑に関して持続可能なシステム（「サステナブルなばら苑」）には、管理運営の話が入ると理解している。ミュージアムの大きな問題として「収蔵庫満杯問題」があり、コレクションが多くなりすぎて、焦点化の必要がある。管理運営費をできるだけ抑えながら、より効果的な管理運営をしていくことが必要である。入場料は重要な鍵を握っている。ばら苑は市外からいらっしゃる方が比較的が多い。今、国立美術館・博物館では二重価格問題が大きな議論になっているが、タックスペイヤーを優遇する市民割で市民の価格を控えめにし、一方で料金設定自体はかなり強気に上げていくなどの方法もある。物価高騰などの社会的要因の中で、入場料だけが安いということはある時代なので、ダイナミックプライシング等、いろいろなかたちで必要な経費を受益者から負担していただく考え方を進めていただきたい。

・3点目に、指定管理と学芸・一体管理の扱いであるが、生田緑地の管理は指定管理、学芸の部分は分離され、それぞれのミュージアムが担当し、比較的うまくいっていると聞くが、それと同じように考えているのか。資料にはばら苑とミュージアムを一体的にどこかの指定管理に管理していただくということが書かれており、生田緑地方式のように一般的な管理運営は指定管理、学芸部門は外出しになるのか、どうするかを明確にする必要がある。ミュージアムについても、調整がどのようにできているかの把握が必要である。また、生田緑地と、こちらのばら苑・ミュージアムの関係をどう考えるか。指定管理の時期がずれるので別々という話があったと思うが、生田緑地の方をばら苑・ミュージアムと同じ時期にずらすなど、いろいろなやり方がある。そもそもの考え方として、独立して別々に管理運営するのがいいのか、そうではないのかを一回考えたほうが良い。

金子会長

事務局から簡潔な回答をお願いします。

事務局

・施設間連携は庁内で検討を進めているところで、施設の性格がかなり違うと認識している。ばら苑は植物を扱っており、土壌や水分が靴の裏について施設内に入ってしまう。ミュージア

ムは、カビの発生などで被害が出てしまう可能性がある。双方に歩み寄れる部分をどこにするのか調整した内容が今回の資料である。昨今の行政施設の検討として、できないものはできないが、できることはしていけないといけないという方向性になると考えている。

- ・次に入場料についてであるが、今のばら苑は市財からの持ち出しがかなり多い状況である。入場料の設定は重要と考えている。今回のサウンディングの中でも御意見をいただきながら進めていきたい。
- ・指定管理については、ミュージアム部分とばら苑部分を一体で進めていこうと考えているが、こちらもサウンディングでどういった御意見がでてくるかを踏まえて進めたい。
- ・学芸部門については、ミュージアム担当部署が検討を進めており、近いうちに、どういったかたちになるのか報告予定である。
- ・指定管理を生田緑地中央地区と東地区で一体にできないかという点について、導入時期が微妙にずれることもあるが、指定管理期間について中央地区は5年、東地区（ばら苑・ミュージアム）はより長期を想定していることから、期間が異なる。
- ・民間事業者が収益を上げて還元する必要がある、民間事業者が収益を上げられなければ運営できないため、期間を長く想定している。
- ・当初から一緒にするのは難しいと考えているが、生田緑地の中で統一的に管理できるのが一番望ましいとも思っている。今後の運営をどうやっていくか、ばら苑担当部署・ミュージアム担当部署ともに課題として認識しているため、今後、検討を深めていきたい。

金子会長

垣内委員、今の発言を受けて、追加で御意見があるか。

垣内委員

・できないものはできないという前提をしっかりと踏まえ、連携できるところを中心に進めていきたいと考えている。ミュージアムについては、委員として関わる中で、他の委員の先生方から指定管理に反対、または指定管理にいろいろな問題があるという議論が大きく出ている状況。仮にミュージアムの方が指定管理から抜ける可能性について、想定の視野に入っているか、それとも一体的に指定管理をするお考えなのか。もし一体

的に指定管理を進めるのであれば、ミュージアムの担当とよく情報交換をしていただきたい。

事務局

・今のところは一体管理というかたちで検討を進めている。ばら苑とミュージアムという性格の違うものをセットで指定管理として公募することになる。これを受ける事業者が本当にいるのか、サウンディングで確認する必要があると認識しており、結果を踏まえ、指定管理をどのように進めるのかを検討していく。また、指定管理だけではなく、この事業全体をどのように進めていくのかも併せて検討する。今後、管理運営整備方針として計画案を改めてお知らせする予定である。

金子会長

続いて、薬袋委員に発言をお願いします。

薬袋委員

・17 ページの拠点及び施設配置の検討のところだが、生田緑地は景観的に特徴のある、とても良い場所であり、緑だけを感じられる環境にばら苑があること自体が価値であり、新宿から15分で駅に着き、歩いてこの空間に来られる価値は大きい。施設配置に、景観を維持できる内容をもっと書き込む必要を感じる。ばら苑では、木々に囲まれた沈床花壇で人工物が限定的にしか見えない状態を大切にしたい。ばら苑北側の小高い丘（最も高いポイント）からの景観も大切にしたい。景観の計画や方針として、見え方をどこかに盛り込めないか、提案させていただく。また、このばら苑のエリアの中にどんな木が見えるのかを明確にしたい。緑が見えればいいだけでなく、どういう緑が見えることを目指すのかを示したい。緑系の専門家の意見が必要だと感じる。

・20 ページに民活導入エリアとその周辺のエリアというような分け方が書いてあるが、民活導入対象エリアは民間中心に整備管理する範囲、それ以外は市がしっかり予算をとってやる範囲として認識してよいか。アクセスを含め、継続的に整備管理が必要な部分が今後も多数あると考えている。

・アクセスルートについては記述があるが、バリアフリーの考え方が十分でないと感じる。地形や環境上、通常の公共施設のようなバリアフリーは不可能だが、誰もがアクセスできる場所と限定的になる場所のような考え方を、バリアフリーの考え方・ユニバーサルデザインとして整理して計画に入れることを

検討していただきたい。

- ・交通アクセスや周りとの連携の記述が見当たらない印象がある。どんなふうにアプローチしてもらうのか、繁忙期に大勢の来訪者をどうマネージするかというのを、周辺の交通環境も含めて考えたほうが良いのではないか。生田緑地は天気の良い週末などに駐車場待ちが一般道まで伸びる状況があり、小田急の方の整備が完了すると、今後さらに府中街道の混雑が予想される。公共交通機関を積極的に使ってもらう場合、どうアナウンスするか、自家用車で来ないように社会へどう発信するか、実際に公共交通機関で来た人が快適にアプローチできるかを計画と一体で考えていかないといけない。
- ・植生管理計画や生田緑地全体との連携だけでなく、周りの雑木林や多摩川、農地を含む自然との連携も組み込み、体制を作ってもらいたい。生田緑地は孤立しておらず、鳥や自然は移動している。そこまでの連携をどこかに盛り込んでもらいたい。
- ・22 ページに関わる内容だが、民間活用の要求水準書に、自然との共生をどう書き込むのかが見えておらず、気になっている。生田緑地憲章をベースにした積み上げがあるが、まだ十分ではないと感じる。その一つの表れとして、23 ページの図面が大がかりな造成を連想させるが、木をいじることは最低限にしてほしい。建物設計で造成を最小限にする取組も含めて、土を含めた自然の考え方をどこかに入れていただきたい。
- ・24 ページのコンセプトの文言であるが、「まわり、巡る。生田緑地ばら苑」が今後どのように議論されるのか、具体的に見えると良い。意見だけを募るのか、突っ込んで考えるのかが気になった。サステナブルとか歴史をつなぐとはいうのは良い言葉だが、インパクトは弱いと感じる。生田緑地らしさを示す、よりインパクトある言葉を広く検討していただきたい。先ほど垣内委員から学芸施設の話があったが、ばら苑についても専門家がいて、研究をキーワードにし、科学館との連携や産業とのつながりを持たせ、川崎市にあるからこそできるばら苑を打ち出すと良いのではないか。専門家の意見も踏まえて、特徴づけるのなら書き込んでいただきたい。
- ・34 ページのボランティアとの協働について、丁寧に検討されている点は良いが、タイムスパンやボランティアの自律性をどこまで求めるのかなど、管理の度合いや、ボランティア体制をどうするかや、育成期間などをどこかに記述してもらいたい。

当初川崎市が引き継いだ際には何百人もの応募があり、なかなか運営がうまくいかなかった経験があり、現在はボランティアが試行錯誤しながら組織をつくっている状況だが、長期的に気持ちよく関われる仕組みづくりを前提として書き入れていただけると良い。

事務局

- ・景観の記載については、周りが緑に囲まれ、借景の要素となっていることについて、公園の施設管理者として緑政としての考えをきちんと入れていく必要があると考えている。
- ・民活導入について、生田緑地は市が買収したエリアは基本的にはすべて市が管理しており、東地区も同様に買収済みの場所は市が管理している。そのうち約3.6ヘクタールを民活導入できないか検討しているところである。
- ・バリアフリーやユニバーサルデザインは非常に大事だが、このエリアはそこに行くまでの道のりが厳しいため、どういった記載が良いのかについて悩んでいる状況である。
- ・交通アクセスについては、小田急電鉄とも協議しながら進めており、駐車場規模の設定などを警察との協議も含めて検討してきている。今後も小田急電鉄と連携しながら進めていく。
- ・民活の要求水準書には、自然共生のような内容を入れる必要があると考えている。ミュージアムの基礎の掘削（根切り）でどうしても土砂が発生するため、外部搬出せず場内処理できないか検討している。ばら苑側に盛り土を行い、高低差を利用してミュージアム2階部分とばら苑のレベルを近づけ、一体感を出せないかという資料を提示している。
- ・コンセプトについては、行政としてはまとまっているが、インパクトが弱いと感じている。こちらについても御意見をいただきながら、今後、ばら苑がどういうものかを民間事業者や市民に伝えられる言葉として整理していきたい。
- ・最後にボランティアについて、再開苑まで時間が長いため、この期間をどうするか検討を進めている。ボランティアの自律性なども含め、今後示していきたいと考えている。

金子会長

いくつかの指摘事項について事務局から回答があった。その他の細かい点についても、今後検討を進めていただきたい。次は橋委員にお願いする。

橘 委員

- ・資料は市民が読んでも読みやすく、とてもよくまとまっていると感じる。この資料の作成の目的を市民参加の視点で振り返り、2つの内容に触れさせていただく。
- ・「こうすべき」ということと「市民の愛着」の関係が対比的に扱われ、話されている印象がある。前回も話したが、多くは情報や視点の差から生じるため、情報共有や、勉強会・学習会を通じた継続的な対話と学びの場が必要であり、ファンやボランティアとして関わる人たちと上手に混ざれる仕組みがあると良いと感じる。ボランティア育成には専門家が関わり、参加を促し、話を広げ、前向きにしていく仕組みが必要であると考えている。
- ・29ページには市民意見の反映についての記載がある。第1回から第3回までのシナリオ案が示されているが、その先の参加の入口や協働の学びの場まで考えたほうが良い。力を入れて多くの意見を取り入れて更新し、愛着を高めていくためにも、専門家との情報共有を交えて実施していくと、さらに良くなると感じる。
- ・事前レクチャーの際に、ワークショップの実施イメージについて、今のボランティアさんを中心に少し参加者を加える形と聞いたが、将来を考えると、今のタイミングで新しい参加者を積極的に受けて、今のボランティアも元気にしていくことが必要である。広報が今の形で伝わりづらい場合は、お花屋さんで潜在的担い手にアプローチするとか、緑化センターの苗木売り場に少し踏み込んだ内容にしたポスターを掲示するなど、工夫をすると良い。今いる参加者だけでよいという形にせず、新しい層を含めることで良い対話につながる可能性が広がると感じる。
- ・分かりやすい広報という意味では、24ページのコンセプト・方向性の部分が気になった。公園自体だけを考えるのであれば、拠点になるとか、魅力をつくるとかは、文言の座りはよいが、公園やばら苑の変化を「市民にどう伝わるか」を考えると難しい言葉に感じる。「ばら苑がどう変わります」だけでなく、市民のあなたの生活にはどんなメリットがあります、あなたの生活にどんなうれしい変化が生まれます、というように踏み込んで発信していくと、今後伝わりやすくなると感じる。マーケティング的にはベネフィットという言葉になるが、それがどう影響を与えるかの部分をきちんと成

文化して、ばら苑を素敵に感じてもらう、といったところを記してもらいたい。

- ・今回の計画では、民間的に入場料を取りながら進めていくことは考えていくべきである。

事務局

- ・情報の共有は非常に大事であると認識している。一般の方を新たに参加者として受け入れることも非常に大事であると考えている。対象者がどこにいるのか、どのような広報方法が適切かについて検討を進めている。今後も検討会や講習会を継続するため、必要な人に十分に届けられる広報を実施していきたいと考えている。今回予定している意見交換会は、ボランティアのみを対象としたものではないが、今後のボランティア育成においては、バラだけでなく組織的な部分の強化も重要であると考えており、プロの支援を受けながら、ボランティア組織を整備していく必要があると考えている。

- ・コンセプトについては、行政的にはそつなくまとまっているが、市民に届くかどうかは微妙であると認識している。ばら苑に来ることで市民生活がどう変わるのかを、わかりやすく表現する必要があると考えている。例えばペルソナ設定などを活用し、わかりやすく表現する方法を検討したいと考えている。これらの点を今後の検討に反映していく意向である。

橘委員

- ・市民参加に関する考えは持っているものの、文言として計画書に反映されていない点が気になった。計画書は数年後に担当者が変わっても残るため、ペーパーに記載することが実現性を高めると考えている。御回答された内容を、文書としてきちんと「見えるかたち」で反映するほうが良い。

金子会長

次は佐藤委員にお願いします。

佐藤委員

- ・9 ページに記載の2巡目の基礎調査がいつ行われるのかが気になっている。18 ページに記載されている「北側のばら苑」や「南側の駐車場が周辺より低い」という状況があり、土砂災害のイエローゾーンやレッドゾーンに該当した場合の対応をあらかじめ検討しておく必要があると感じている。

- ・33 ページの料金設定や年間入園者数の想定が大きいので、有料で運営していくためには集客が大変重要になると感じてい

る。近隣の駅を利用している立場として、歩けば15～30分程度の距離だが、まちなかや駅を歩いて、ばら苑の存在がわかりにくい。SNS・駅前モニターなどの発信に加え、駅前広場や道中、バス停からのルートや遊園跡地などにバラを配置し、まちの中でばら苑の存在を感じさせてくれるのが、プロモーション的な観点から重要だと感じた。都電荒川線の大塚駅前の「バラロード」では古いバラ100株をみんなで育てて、花のまちづくり大賞を獲ったというので、生田緑地ばら苑に関しても、まちなかにバラが点在する取り組みによって、ばら苑として盛り上がっていくのではないかと考える。

・24ページのコンセプトについて、「ここで過ごした時間が、訪れた人の日常を優しく変えていく」という記述はすばらしいが、まちの視点も含める場合、「訪れた人の日常や街並みを優しく変えていく」とか、「人とつながる」についても、人や街とか、人やみどりとつながるとか、人だけではなく、まちとか地域とか文化、緑といった文言が入っても良いと感じた。

・28ページのワークショップについてであるが、最近ワークショップに参加していると、テーブルのアイデアが残らなかったり、すごいプログラムが組まれていて、限られた時間で自由に意見を言いにくかったりなどを感じる人が多い。意見収集の際には、ワークショップだけでなく、準備やフォローアップでの丁寧な聞き取り調査もあると良いと考えている。

・葉袋委員も仰っていたが、アクセスがとても気になる。16ページを見ると、遊園跡地から入るルートがメインルートのように見えるが、その遊園の跡地がどのように整備されていくのかということが関係しそうだと感じた。専修大学10号館では1階～5階通しのエスカレーターを作ったが、ばら苑でもエスカレーターのようなものや、車がそぐわない可能性はあるが、上部に地下駐車場があるなど来訪手段の選択肢が増える形もあり得ると考えている。小さい子どもやお年寄りの来訪を考えると、坂のきつさを踏まえたバリアフリー計画を具体的に検討しておくことが、集客と持続可能な運営に関係すると感じている。

事務局

・斜面地については、以前から佐藤委員から御意見をいただいている。土砂災害警戒区域の指定は神奈川県が指定するため、事前に情報を取得できるように働きかけ、今対応を重ねて

いるところである。斜面地が非常に多く、出入り口が非常に限られている施設であるため、避難・誘導の計画を管理運営の中で検討する。

・料金設定が非常に大事という点も認識している。年間13万人来るかどうかという点だが、現在も春秋の開苑だけでもかなりの人数が来場している。通年開苑に置きかえ、入園の波は他園を参考に設定している。現在は無料であり、有料化した場合に来なくなる方がいる想定を含めて、このぐらいの人が来るという設定をさせていただいている。金額も他園を参考に設定しており、市民の方には割引の導入を含めて料金設定を検討している。ばら苑の採算を踏まえ、仮設定として金額を提示している。

・ばら苑のプロモーションについてであるが、通年開苑に向け、向ヶ丘遊園駅・宿河原駅からお客様をどう誘導するか検討していかなければいけない。ばら苑近くには藤子・F・不二雄ミュージアムがあり、キャラクターをまちなかのいろいろなところに設置して誘導している。バラの植栽の可否は別として、バラをうまく用いながらお客様を誘導できる手法を検討していきたい。

・コンセプトシートについては、内側からだけの見方との御指摘をいただいている。これを踏まえ、人とのつながりやまちとのつながりをお示しできるように検討を進める。

・ワークショップの実施についてであるが、今回は皆さんからご意見をいただきたくため、ワークショップという手法を採用しているが、出された意見をどう活用するのかと参加者から御質問をいただく。今回出た御意見は、民間事業者に示す要求水準書の参考資料として使うことをあらかじめお示したうえで開催する。

・アクセス改善は非常に大きな課題と考えているため、隣接する小田急電鉄と連携し、改善を図っていききたいと考えている。

金子会長

・24 ページのコンセプトのページは、重要であるため整理が必要と考える。市がどういったことをしたいかを示す部分であり、ここに一番精力を注いでほしい。具体的な内容は次ページ以降にあるが、まとめきれていないので、しっかり整理していただきたい。

・キーワードを3つ並べているが、1つ目の「サステナブル」は、運営のサステナブルという意味合いもあるし、自然との関わりともとれる。バラという植物に絞った意味でもとれ、いずれにも読めるため、わかりにくい。2つ目の「歴史文化の拠点」のところだが、自然に対する歴史文化という意味にもとれるし、拠点という見方をすると、地域づくりとの関わりやエリアとの関係での意味にも読める。3つ目の「魅力ある」というところは、前提として当然であり、市民協働や市民共創により、ばら苑をつくっていききたい、といったことではないか。これら3つを並べるとき、運営、施設、地域の仕組みなどのことから整理する必要がある。

・「生きものと出会う」「みどりを知る」「人とつながる」といった語もコンセプトのキーワードとして整理できそうである。

・「ばら苑」という言葉は、「苑」を使用している。命名時の経緯は不明だが、「園」との違いを含め、生田緑地のばら苑の特徴として良い意味で活かせる可能性を感じる。

・「行き来し」「まわり、巡る」という表現は、ニュアンスは伝わるが、市民には伝わりにくいため、もう少し紐解いた表現があっても良い。

・垣内委員の御意見を受けて感じたこととして、ミュージアムとばら苑の機能分担についてである。機能は共有できても、実際の施設として共有できるかどうかの違いがある。バックヤード以外でも、共有した方がよい部分と分けた方がよい部分が存在しているように感じる。その点を丁寧に配慮しながら進めなければならないことを明記する必要がある。

・今後も市民意見や民間事業者の意見を聞くということであるが、市の考え方がどうなのかについて明確になるよう配慮した方が良いと思う。

事務局

・コンセプトの話は各委員から御指摘を受けており、当たり障りのない表現でお示ししていた点について御詫び申し上げます。今後民間活用をしていくときに戻ってくる場所になるため、丁寧に進めていく必要がある。最終的な整備方針を示す段階では、きちんとお示しできるように検討を進める。

・機能共有の部分は、ミュージアムの関係部局と密に調整を進めており、庁内の各部署とも調整を行っている。今後のサ

ウンディングも含めて、お示ししていく。

- 金子会長 皆様から一通り御意見を伺いたところで、予定の時間が迫ってきている。個別に事務局へ意見を届ける流れもあるが、今日この場で発言しておきたいことがあればご発言いただきたい。倉本委員に伺う。
- 倉本委員 ・生田緑地東地区での環境アセスメントについては自然会議で意見を述べ、その後ヒアリングを受けたが、その扱いは本会議とは全く別になるのか。環境アセスでは「地形の上に植生や生き物がいる」という点への配慮をお願いした。
- 事務局 ・環境アセスメントの手法については、いただいた御意見を踏まえ、改めてミュージアムの部署とともに御説明に伺うため、本会議とは別の流れで進めさせていただきたい。
- 倉本委員 ・環境アセスメントについては本会議では触れていなかったため、薬袋先生の発言に関連してお伝えする。
・地形の上に色々な生き物が乗っているという前提があり、地形も自然の重要な要素として考える必要がある。
・それは「絶対に何も変えてはいけない」という意味ではない。
- 事務局 ・承知した。その対応については、この会議でお示しさせていただくのではなく、改めて自然会議などの場でお示し、ご報告させていただく。
- 金子会長 オンラインで御出席の委員より伺いたい。垣内委員にご発言をお願いする。
- 垣内委員 ・ボランティアの書き方に違和感がある。10-6「今後の市民協働の考え方」にある「多くのボランティアに活動してもらうために、指導者や専門性を持った人材の確保」という書き方についてだが、川崎の場合、新百合映画祭のように、ボランティアが専門性を持ち、組織的な統括、自主的なアイデア出し、資金集めまで行う活動が多く見受けられる。一方、生田緑地では、そこまでディープに関わるボランティアは多く

なく、指導者や専門の方の指導のもとで動く現場の方々が多いということか。実際の実現まで時間的な余裕があるため、こうした方々を組織化することがサステナブルな運営に非常に重要ではないかと感じるが、現実には難しそうなのでこの書き方になっているのか。

事務局

・ボランティアの現状として、ボランティアに直接携わる部分については、日本バラ会から技術指導を受けている。ボランティアには20年以上活動している方から今年入った方までおり、技術差があるため、入ってすぐの方を対象に技術指導を行っている。運営の部分では、ボランティア会によるガイドツアーの実施があり、自主的な活動を重ねている成果がある。しかし、長期間の閉苑があるため、新しい方や一般の方に入ってもらふ必要があると認識している。講師を招いて技術的な部分を維持することや、今後のボランティア活動の進め方を検討し、コミュニティづくりを含めて専門家を招いて進めていきたいと考えている。

垣内委員

・今までのレガシーを引き継ぎつつ、既存の方々の力も借り、新しい方も入れ、そのために必要に応じて専門家も入れるという理解でよいか。ボランティアは運営上たいへんな資源であり、運営費や管理費を節減できる可能性のある潜在的な資源であるため、再度確認したい。

事務局

・今回民間事業者への移行を考えている中で、ボランティアの方はどういったかたちで活躍してもらふのかを検討している。垣内委員に御意見をいただいたような部分をなるべく生かし、それが川崎市のレガシーであることを示しながら、民間事業者とともに事業を進めたい。

金子会長

他は特によろしいか。限られた時間の中で様々な御意見をいただき感謝申し上げます。事務局については委員の皆様の意見も踏まえて、今後引き続き検討いただきたい。十分に御発言できなかった部分への対応も含めて、事務局の方で今後御説明をいただきたいと思う。本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。事務局の方に進行をお返しする。

事務局

ご審議いただきましてありがとうございました。このあと委員への事務連絡がございますので、傍聴者の方はご退室をお願いいたします。

事務局

(事務連絡)

最後に、閉会の挨拶でございます。それでは、緑政部長、よろしくをお願いいたします。

緑政部長

本日は限られた時間の中で多くの御意見をいただき感謝申し上げます。生田緑地のばら苑に関して、中央地区の指定管理と東地区のばら苑の管理運営の関係性をしっかり検討する必要がある。生田緑地ビジョンや生田緑地憲章といった、みんなで共有できるビジョンがあることを大きいことであり、そのビジョンのもとで最も良いかたちを検討していきたい。ばら苑のコンセプトは共通の認識を持つために非常に重要であり、本日の意見を踏まえて今後も検討を進める。この秋ではばら苑最後という状況の中、最終日は5000人以上が来場し、多くの市民から「5年も6年も来られないのは残念・寂しい」という声や再整備への期待を多く受けた。多くの市民に親しまれているばら苑であるため、引き続き良い方針となるよう検討をしていくため、今後も引き続きお力添えを賜りたい。

事務局

それでは、以上をもちまして、「令和7年度 川崎市公園緑地等整備計画推進委員会 第2回生田緑地ばら苑再整備検討部会」を終了いたします。本日はありがとうございました。

以上